日本頭蓋健診治療研究会・学術集会

第 13 回
日本頭蓋健診治療研究会・学術集会
抄録集

大会長 杉田 依里

会 期 2026 年 3 月 15 日（日）

会 場 あうるすぽっと【豊島区立舞台芸術交流センター】

第 13 回日本頭蓋健診治療研究会学術集会事務局

第 13 回日本頭蓋健診治療研究会・学術集会

第 13 回日本頭蓋健診治療研究会・学術集会

大会長 杉田 依里

赤ちゃんの頭の形に対する保護者の不安は大変大きいものです。病的な頭蓋変形を見落とさないことと、位置的頭蓋変形を持つ赤ちゃんに対して的確なアドバイスができるかどうかが、日常の診療や健診の場では非常に重要です。突然死予防のための仰向け寝のアドバイスなどが原因で頭のゆがみが発生したという係争事例も出ています。頭の形に対する適切な評価と正しい情報提供は、すべての赤ちゃんに必要であると考えます。この学術集会に参加することで、保護者の不安を理解し、適切なアドバイスができるようになる、赤ちゃんの診療・健診に携わるすべての方に役立つ学術集会にしたいと思っています。

１．会 期

2026 年 3 月 15 日（日）

２．会 場

あうるすぽっと【豊島区立舞台芸術交流センター】（ハイブリッド開催）

３．テーマ

新しい頭蓋健診を目指して

「赤ちゃんの頭の形、大丈夫ですか？」この質問にどう答えますか？

４．大会長

新大塚こどもクリニック　杉田依里

基調講演「小児科開業医の行う頭蓋健診の提案」

サニーガーデンこどもクリニック

首里京子

①新しい頭蓋健診を目指して　2～4 か月の予防接種時の頭蓋変形評価の試み
新大塚こどもクリニック　杉田依里

　乳児の頭蓋変形評価の空白期間を減らすため、2 か月の予防接種の際にアンケート調査を実施し、その後視診を中心に頭蓋変形評価を 2～4 か月までの計 3 回行った。2 か月時のアンケート調査結果は保護者の頭蓋変形についての考えを知るだけではなく、その後の専門医療機関への紹介率やヘルメット治療導入の予想に役立ち、予防接種時の頭蓋変形評価は空白期間を無くするための新しい頭蓋健診のあり方の 1 つであると考えられた。

②地域における位置的頭蓋変形の予防対策と健診の取り組み
みなと小児科　湊　通嘉

　地区医師会と行政とが連携し、新しい時代の課題である位置的頭蓋変形から乳児をどのように守り、保護者の心理的、経済的負担を減らすことができるかの方策について紹介する。行政による妊婦への位置的頭蓋変形に関する啓蒙活動、赤ちゃん訪問によるタミータイムの確認や指導、3～4 か月健診における新たな頭蓋健診の導入、そして地区医師会における 2～4 か月予防接種時の頭蓋評価の導入に関する検討の現状について報告する。

ワークショップ

「頭蓋健診を行うために知っておきたいこと」

①位置的頭蓋変形リスク因子の検討

信濃医療福祉センター　整形外科　朝貝芳美

変形のリスク因子として第１子や男子、股関節脱臼などが挙げられている。生後 1〜4 か月で股関節検診を行った 1,142 例、男子 412 例、女子 730 例に対して、頭蓋変形アプリを用いて頭蓋非対称性指数（CVAI）と短頭度（CI）を検討した。CVAI と CI は第１子 3.6±3.4、91±11、第２子 3.7±3.6、93±8.6、第３子 3.2±2.3、90±7.4 で第２子に変形が強い傾向があり（p＞0.05）、昼間寝かせておく時間が長くなりやすいことも考えられた。性別では男子 4.2±3.8、93±10、女子 3.9±3.6、92±8.3 で男子に変形が強い傾向がみられた（p＞0.05）。

②頭蓋変形評価のための視診と触診のテクニック

東京女子医科大学　脳神経外科　藍原康雄

乳児の頭蓋変形に対する保護者の不安は強く、予防接種時や健診における初期対応が重要である。本講演では、地方自治体が長年培ってきた乳幼児健診体制に、医学的視点からの頭蓋評価を統合する意義に着目し、視診・触診・問診を中心とした実践的な頭蓋健診手技を提示する。顔貌、左右顎関節（外耳道）位置変位、泉門および縫合線の触診を中心に、位置的頭蓋変形と病的頭蓋変形との鑑別方法、および保護者への適切な説明と対応をまとめる。

③乳幼児の頭蓋変形に関する実態調査：五島プロジェクト

長崎大学　生命医科学域リプロダクティブヘルス分野　江藤宏美

本研究は、乳幼児の頭蓋変形の経時的変化と睡眠関連要因との関連を明らかにすることを目的とした縦断研究である。五島市福江で４か月健診を受診した乳児 171 名を対象とし、1 歳半まで追跡した。頭蓋形状は 3D スキャナにより測定し、評価した。縦断解析対象は 151 名であり、CVAI は４か月時 3.7％から１歳半時 2.8％へ有意に低下し（p＝0.007）、後頭部左右対称率も有意に改善した（p＜0.001）。一方で変形が残存する児も認められ。乳幼児の頭蓋形状は経時的に改善する傾向があるが個人差があり、早期からの継続的評価の重要性が示唆された。

話題提供「医療安全から見た頭蓋健診とヘルメット矯正治療：高知県での係争事例を踏まえて」

①医療安全からみる頭蓋健診
練馬光が丘病院　小児科　細野茂春

　医療安全とはミスや事故、感染を防ぎ、患者が安全に医療を受けられるようにするための包括的な取り組みです。安全性が損なわれれば、患者満足度の低下だけでなく、重大なクレームに発展することもあります。特に「乳児の頭蓋変形」は医療者と保護者の間で病態に対する認識のギャップが生じやすい分野です。本講演では、無用なトラブルを避け、円滑な保健活動･診療を行うために、医療者が知っておくべき注意点と具体的な対応策について解説します。